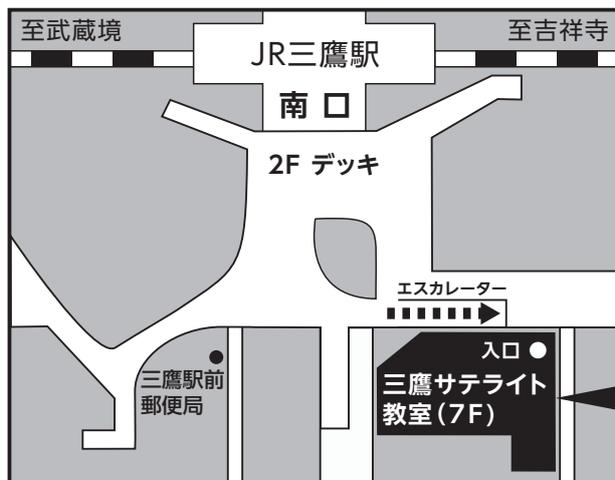


## 『源氏物語』 「帚木三帖」の謎

受講料 (振込額)	12,500円				
必携テキスト	『源氏物語 桐壺 一末摘花(一)』 [岩波文庫 / 柳井滋・室伏信助等 / 2017年 / 1,584円]				
講座概要	曜日	水曜日		日程	
	時間	13:00～14:30			
	回数	全5回	定員		40名
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F / 大教室			
講師	学習院大学名誉教授 神田 龍身 (かんだ たつみ)				
	早稲田大学大学院文学研究科博士課程後期退学 単著として、『物語文学、その解体』(有精堂出版、1992年)、『偽装の言説』(森話社、1999年)、『源氏物語＝性の迷宮へ』(講談社選書メチエ、2001年)、『紀貫之』(ミネルヴァ書房、2009年)、『平安朝物語文学とは何か』(ミネルヴァ書房、2020年)、『神田龍身初期論文集』(学習院大学研究叢書、2021年)、『鎌倉幕府の文学論は成立可能か!』(2024年9月刊行予定、勉誠出版)。				
内容	『源氏物語』は「桐壺」巻を始発として「帚木」「空蟬」「夕顔」「若紫」という巻々へと続く。しかし主人公光源氏の藤壺への思慕の情を以てして終る「桐壺」巻は、空蟬や夕顔との恋を語る「帚木」「空蟬」「夕顔」(「帚木三帖」といわれる)へと直結しない。そして藤壺との恋という点で、この「桐壺」巻は「帚木三帖」を飛ばして「若紫」巻の方と接続している。なぜそうなのか。また「若紫」巻は源氏と藤壺とが既に深い関係にあることを自明の前提として語られているが、なぜか肝心要の二人の最初の逢瀬は「帚木三帖」のどこを捜しても見当たらない。以上のように『源氏物語』始発の巻々には大変不可解な現象が認められるのだが、「帚木三帖」を参観しつつ「若紫」巻の冒頭部を徹底的に読み込むことで、この「謎」を解明したい				
	〔持ち物〕テキストを持参していただければ十分です。※テキストを岩波文庫にしましたが、「桐壺」「帚木」「空蟬」「夕顔」「若紫」巻の全文が収録されてあるテキストならば、なんでも可です。小学館新編日本古典文学全集、新潮日本古典集成、岩波新日本古典文学大系、玉上琢彌校注『角川文庫』を既にお持ちの方はそれがかまいません。				
①7月17日:「桐壺」巻と「帚木」「空蟬」「夕顔」との繋がり ②7月31日:「桐壺」巻と「若紫」巻との繋がり ③8月21日:「若紫」巻の若紫発見場面(冒頭部)を読む ④9月 4日:「若紫」巻の源氏と藤壺の密通場面を読む ⑤9月18日:「帚木」「空蟬」「夕顔」(「帚木三帖」)の位置づけ					



# 武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013  
東京都三鷹市下連雀3丁目26-12  
三鷹三菱ビル

JR中央線・総武線  
東京メトロ東西線  
JR 三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 7F  
(三菱UFJ銀行のビル)

1F入口からお入りください

- 「受講の手引き」を必ずお読みの上、ご参加ください。